

ナースインホームひまわり

症 例 概 要 利用者：要介護2、80代後半、女性

利用期間：令和5年1月下旬～現在に至る

経過：令和4年12月にベッド横で起き上がることが出来なくなっていた。吐気、悪寒、震えの訴えありN病院に緊急搬送され検査するも症状の原因となる所見なし。元々、変形性膝関節症があり、発熱等もあったことから体調を崩したとの医師の意見。石巻健育会病院を受診し頸髄症の疑いで入院。食道裂孔ヘルニア、発熱、膝痛は偽痛風の診断あり。既往歴として、腰部脊柱管狭窄症、両変形性膝関節症、骨粗鬆症あり。治療後の1月下旬に退院され、自宅復帰に向けてのリハビリや医療、介護ケアの必要があり当事業所の登録となる。

内 容

令和4年12月下旬に自宅にて急に動けなくなり病院へ入院となる。令和5年1月下旬の退院後は当事業所の登録となり利用開始となりました。ご家族やご本人は元のように自宅での生活を望まれていましたが、ADLの低下や病状が安定していない状況での自宅生活に、大きな不安を抱えていました。

退院時の状態は、ベット上で寝たきりで認知力、意欲低下も見られ、ベット柵につかまっでの自力で寝返りもできず、スタッフが体位変換の介助を行っていました。

又、排泄面でも尿便意なく、常時オムツを使用。パットを使用し、定時に交換介助を受けており、食事面では摂取量が少ない為、点滴(1000ml) 24時間キープされ、日常生活全般に介助を要する状態となっていました。そのような状況でも少しずつ施設生活にも慣れ、徐々に体調も回復傾向が見られ、ベッドから車椅子に離床する時間も増えてきました。

毎日の活動にも、はじめは見学参加だけでしたが、体力もついてきて意欲も見られるようになり、体操などの活動も進んで取り組まれました。生活していくなかで顔なじみのご利用者も増え日常会話も多くなり、以前より表情も穏やかで変化が感じられるようになりました。

周りのご利用者やスタッフとの関わりの中で刺激にもなり、いつしか一人でトイレができるようにまで頑張りたい、家に帰れるようになりたいという目標ができました。日々の立ち上がりや歩行練習のリハビリも欠かさず実施され、関節痛や免疫アップの改善にアプローチしたアロママッサージケアを継続的に行いながら、1つ1つできることが増えるようになりました。

今では、ご自分でトイレにて支えがない状態でも立位保持ができズボンの上げ下げの一連の動作もできるようになりました。又、自宅に帰る頻度も月1回から2回程度でしたが、現在では毎週1回は帰れるまでに増え、ご本人が目標としていたことが達成されるまでになりました。今月で利用開始されてから丁度1年が経過しようと

しています。ご利用者の頑張りが今の結果に繋がっていると感じています。

ご本人はまだまだ現状には満足されておらず、もっともっと頑張らないと、と気合十分です。先月の認定調査では5から2へ変更となりアップされました。

私達もとても嬉しく、ご利用者からも刺激を受けながらこれからのケアにもより力を入れ、ご利用者のように生き活きと毎日を過ごして頂けるよう、ご利用者お一人お一人に愛情を持った親身対応を心がけながらサポートを継続的に実施していきます。